

# チームとして取り組む学力向上について

山梨県教育庁特別支援教育・児童生徒支援課

〔R4.4.改訂〕

## ○「やまなしスタンダード」について

県教育委員会では、「すべての学校で校長のリーダーシップの下、全教職員がチームとなって授業研究が行われている山梨県」を合い言葉に、児童生徒の確かな学力の定着・向上を目指した取組を進めています。

そこで、上記の取組の中心となる特別支援教育における「授業づくりの7つの視点」を下の枠内に示しました。これは、授業者と授業参観者が同じ視点で授業を見つめることで、その成果や課題をより具体的に把握・共有できるようにするためのものです。授業の構成、展開、振り返り等、あらゆる場面で活用し、「やまなしスタンダード」としての定着を目指しています。

### やまなしスタンダード【特別支援教育版】

#### ●授業づくりの7つの視点

- ① 授業の始めに授業のめあて（目標）と学習の見通しを示している。
- ② 障害の状態に応じて自ら考え、判断し、表現する活動を具体的に取り入れている。
- ③ 自主的・自発的な学習を促す教材・教具等を用意している。
- ④ 達成感や自己肯定感が高められる指導を工夫している。
- ⑤ 学んだことが活用できる場を設定している。
- ⑥ 学習を振り返る時間を設定している。
- ⑦ 学んだことと実際の生活との関係を示し、学ぶ意欲を育てている。



#### 一人一人の教育的ニーズに応じた授業づくりの工夫

## ○ 授業研究の活性化

- ◇校長のリーダーシップの下、教員個人だけではなく、チーム（学校・学部・ブロック・学年・学習グループ等）としての授業力向上のための授業研究を行ってください。
- ◇授業研究は、「授業づくりの7つの視点」を参考に、授業改善に向けたPDCAのサイクルをスパイラルに機能させ継続的に進めてください。
- ◇「授業づくりの7つの視点」と関連付けながら主体的・対話的で深い学びに基づいて授業の見直しをしてください。※1
- ◇授業を充実させるためには、まず幼児児童生徒の実態を多角的に把握し、指導者自身が授業のめあて（目標）を明確にし、それを幼児児童生徒と共有することが大切です。必要に応じて、学校内外の専門家と連携し、障害の状況やその対応について実態を把握してください。

